

令和4年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）

地域ケア会議の効果的な運営の推進に関する調査研究

地域ケア会議を活用した 政策形成のプロセス

地域ケア会議の運営方法を見直し、
政策形成へとつながる道に関係者で見出した事例

【 事 例 動 画 】



制作：地域ケア会議の効果的な運営の推進に関する調査研究委員会
一般財団法人長寿社会開発センター

実際の市町村の取組みをもとに作成した事例です。
 地域ケア会議の運営に悩んでいた小川市の取組みから
 皆さんの実施している地域ケア会議を振り返ってみましょう。

2

小川市の概況(基本情報等)

人口	33,000人
第1号被保険者数	11,900人
前期高齢者数	5,500人
後期高齢者数	6,400人
高齢化率	36.1%
一人暮らし高齢者数	1,900人
地域包括支援センター	2か所 委託設置

1954(昭和29)年4月に小川町を中心とした6町村が合併し誕生。

現在も旧町村単位のコミュニティ協議会がまちづくりの中核であり、日常生活圏域は6圏域となっている。

大河川が市の西側を流れる河口部に位置し、市内はほぼ平坦な地形だが、市域には川の中州にある地域も含まれている。

主要な産業は、「家具」「建具」などの木工業で、木工所、家具店、製材所などの木工業関連の会社が集積している。水稻・いちご・海苔などの農水産業も盛んである。市内に鉄道はなく、車がないと移動が困難になる。

地域包括支援センターは直営1か所であったが、令和2年度から委託型2か所とし、市域の北部と南部に1か所ずつ設置している。

北部圏域は、市の中心部の商業地域と農村部、木工業中心の工業地域が混在し、昔から住んでいる住民と転入してきた住民との交流が少ない。

南部圏域は、農業や漁業が中心で昔ながらの近所付き合いが残っているが、若者が市外に流出し高齢化が進んでいる。

3

旧 小川市の地域ケア会議体系図

開催主体	会議名	会議の目的	地域ケア会議の5つの機能					参加者	開催頻度
			① 個別課題 の解決	② ネットワーク 構築	③ 地域課題 の発見	④ 地域づくり 資源開発	⑤ 政策の 形成		
地域包括支援 センター	ミニケア会議	新規利用者の事例について、自立支援 に向けた個別ケースの検討、自立支援 の手法の共有、地域課題の発見・解決 策等の検討	○		○			包括職員、市健康課、栄養士、OT等	1回/月
小川市	小川市 地域ケア会議	自立支援の考え方の共有、ケアマネ支 援	○	○	○	○		市健康課、包括職員、CM、 サービス提供事業所、専門 職等	1回/月

それぞれの地域で解決できなかった地域の課題について、市全体で解決策・取組みを検討していく



小川市	地域ケア 推進会議	地域の課題を共有し、課題解決に向け 具体的に連携し取り組む		○	○	○	○	市職員、第1層協議体他	必要に応じ 開催
-----	--------------	----------------------------------	--	---	---	---	---	-------------	-------------

4

地域ケア会議の運営に課題を感じていた 小川市の取組みの変化を見ていきましょう

映像【シーン1～9】は、実際の市町村の取組みをもとに作成したものであり、
これから紹介する自治体はあくまで架空のものです。

プロセスにおけるポイントを理解するための題材にすぎません。

皆さまの地域で展開している地域ケア会議と運用が異なる場合があります。

5

シーン 1

6月24日

県が実施する地域ケア会議の研修に参加したことをきっかけに、普段の地域ケア会議の進め方に疑問を感じた小川市職員が課内で問題提起を行います。
実際の会議の運営を振り返り、改善していくきっかけを掴みます。

このシーンで注目すべき点

係員が研修受講後、気づきのあった点を紙で復命するタイミングで、回覧するだけでなく、課内の関係者との対話を図り、実際の地域ケア会議の運営方法について、問題提起をしている点

登場人物

【小川市健康課】
課長補佐
高齢者支援係長
高齢者支援係員

6

このシーンの振り返り

担当者

研修受講後、気づきのあった点を紙面で復命するタイミングで、回覧するだけでなく、課内の関係者との対話を図り、実際の地域ケア会議の運営方法について、問題提起をしている点。

係内・管理職

- 多忙な中でも、対話する時間を惜しまず、問題提起に関して向き合う姿勢がとれている点。
- まずは、話を聴いてみる!という姿勢が大切。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難

困難1 わがまちの地域ケア会議の体系を構築できない(p6)

困難10 地域課題の解決に向けた政策を形成できない(p25)

7

シーン 2

6月30日

「地域ケア会議の運営」に関する担当者からの問題提起を受けて、市職員の中でアンケートを実施しました。

その結果も踏まえ、改めて小川市が目指す「地域ケア会議」のビジョンについて職員間で協議を始めます。

このシーンで注目すべき点

係長が今までの会議を振り返り、一覧表を作成するなど、可視化を図り議論がしやすい工夫を図っている点

登場人物

【小川市健康課】

課長

高齢者支援係長

課長補佐

高齢者支援係員

8

このシーンの振り返り

担当者

- 多忙な中でも効率的に協議を行うため、事前に地域ケア会議に関するアンケートを市職員に無記名式で実施。回答内容から課題の傾向を掴み、会議時間の短縮を図るとともに、経験値が低い者でも自由に意見を出しやすい工夫を行っている点。
- 今までの会議を振り返り、一覧表を作成するなど、可視化を図り議論がしやすい工夫を図っている点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

ポイント8 市町村と地域包括支援センターが話し合って構築する(p9)

ポイント24 複数の事例を横断して地域課題・自立促進要因の種をみる(p16)

ポイント27 複数の地域課題を類型化して仕分けする(p18)

9

シーン 3

7月14日

小川市が何のために地域ケア会議を開催するのか、地域ケア会議を開催する目的やビジョンを改めて課内で確認し合う場面です。

このシーンで注目すべき点

小川市の地域ケア会議は何を目的として運営するのか、改めて課内で協議している点

登場人物

【小川市健康課】

課長

高齢者支援係長

課長補佐

高齢者支援係員

10

このシーンの振り返り

課内

- 小川市介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画に記載の「高齢者が生きがいを持ち、互いに支え合いながら住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らし」ができることが、市の大ビジョン(あるべき姿)と確認。
- そこに近づくために、小川市の地域ケア会議は何を目的として運営するのか、改めて課内で協議している点。
- 市だけで完結せず、地域包括支援センター等の意見も聴きながら進めていこうとしている点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

- ポイント2 わがまちの地域包括ケアシステムのビジョンを明確にして共有する(p6)
- ポイント8 市町村と地域包括支援センターが話し合って構築する(p9)
- ポイント11 「地域ケア個別会議」の目的・目標を明確にし、参加者で共有する(p10)
- ポイント12 参加者の対等性を担保したルールを徹底する(p10)

11

シーン 4

7月27日

地域ケア個別会議後に構成員と意見交換を行い、地域ケア会議の運営における課題を把握している場面です。

このシーンで注目すべき点

係長が課内で話し合ってきたことをもとに、地域ケア個別会議の構成員に改めて「地域ケア会議の目的を同じ目線で共有できていなかったのではないか」と問題提起を行い、忌憚なき意見を伺う姿勢を示している点

登場人物

【小川市健康課】

課長

課長補佐

高齢者支援係長

高齢者支援係員

【地域ケア個別会議の構成員】

管理栄養士

理学療法士(PT)

看護師

作業療法士(OT)

医師

北包括センター 主任介護支援専門員

南包括センター 主任介護支援専門員

12

このシーンの振り返り

担当者

- 課内で話し合ってきたことをもとに、地域ケア個別会議の構成員に改めて「地域ケア会議の目的を同じ目線で共有できていなかったのではないか」と問題提起を行い、忌憚なき意見を伺う姿勢を示している点。
- 地域ケア会議についても進めていくだけでなく、PDCAを意識しながら、時々振り返ることの必要性。

構成員の選定

- 地域ケア会議が本来の目的を果たせるよう、疑問に思うことや改善点については、遠慮せず、市や地域包括支援センターに伝えてくれる構成員を選定することが大切。
- 地域ケア会議が目指す方針に合わせて、これまでの構成員に固定化せず、議題に合わせた多様な構成員の参画を検討することも重要。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

ポイント17 「地域ケア個別会議」の運営に関する評価を行い、運営を見直す(p12)

13

シーン 5

7月29日

市と地域包括支援センターが定例会で地域ケア会議の体系や運営方法の見直しに関して意見交換を行っている場面です。この場面では、地域ケア会議の開催目的を明らかにしていきます。

このシーンで注目すべき点

市と地域包括支援センターで、改めて具体的に「地域ケア会議の進め方」について意見交換を実施することで、地域ケア会議の開催目的が明確に示されていなかったために支障が生じていたなど、日頃抱えていた思いをすり合わせることができた点

登場人物

【小川市健康課】
課長補佐
高齢者支援係長
高齢者支援係員

【北地域包括支援センター】
主任介護支援専門員
社会福祉士（センター長）
保健師

【南地域包括支援センター】
主任介護支援専門員（センター長）
保健師
社会福祉士

14

このシーンの振り返り

市と地域包括支援センター

- 市と地域包括支援センターで、改めて具体的に「地域ケア会議の進め方」について意見交換会を実施することで、地域ケア会議の開催目的が明確に示されていなかったために支障が生じていたなど、日頃抱えていた思いをすり合わせることができた点。
- 意見交換をもとに、地域ケア会議の目的の明確化や、会議の体系化（運営協議会や協議体との連携など）、運営方法の見直しなど、今後の取組に発展させていくことを共有した点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

- ポイント4 「地域ケア個別会議」と「地域ケア推進会議」が連動する体系をつくる（p7）
- ポイント6 「地域ケア推進会議」と他の会議や事業と連動する体系をつくる（p8）
- ポイント8 市町村と地域包括支援センターが話し合って構築する（p9）
- ポイント10 地域ケア会議運営の振り返りによって体系を見直す（p9）
- ポイント17 「地域ケア個別会議」の運営に関する評価を行い、運営を見直す（p12）

15

シーン 6

8月5日

地域ケア個別会議の構成員や地域包括支援センターとの意見交換を経て、改めて課内での協議を行う場面です。

徐々に小川市の地域ケア会議の体系の見直しの必要性和今後の高齢化問題に対応するための庁内連携会議の場の必要性が確認され、関係各課への調整が始まります。

このシーンで注目すべき点

すぐに改善できること、来年度から対応できること、長期的な取組みが必要なことを分類し、関係者との調整を進めている点

登場人物

【小川市健康課】

課長

高齢者支援係長

課長補佐

高齢者支援係員

16

このシーンの振り返り

課内

- 地域包括支援センターとの意見交換で提示された課題を解決するために、具体的な方法をすぐに検討している点。
- すぐに改善できること、来年度から対応できること、長期的な取組みが必要なことを分類し、関係者との調整を進めている点。
- 課内だけでは解決しない問題は、県などの第三者の力も借りつつ、庁内連携を円滑に進めるための方法を検討している点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

ポイント45 組織アセスメントのもと庁内での理解をひろめ、連携体制を構築する (p27)

17

シーン 7

8月20日

地域ケア推進会議に向けて、市と地域包括支援センターが地域課題の整理・分析・仕分けを行う場面です。

このシーンで注目すべき点

地域ケア個別会議で検討したケースの整理を行うことで、個別課題が集積され、地域課題の整理へとつながる点を確認

登場人物

【小川市健康課】
課長補佐
高齢者支援係長
高齢者支援係員

【北地域包括支援センター】
主任介護支援専門員
社会福祉士（センター長）
保健師

【南地域包括支援センター】
主任介護支援専門員（センター長）
保健師
社会福祉士

18

このシーンの振り返り

市と地域包括支援センター

- 地域ケア個別会議で検討したケースの整理を行うことで、個別課題が集積され、地域課題の整理へとつながる点を確認。
- 調理に課題のあるケースが多いことから、食の自立につながる事業の検討につながっていく点。
- 移動についての課題についても、検討してきたケースを整理することで、リハ職同行訪問や通所Cの拡充など、新たな事業の検討につながっていく点。
- 第2層協議体とつながることで、地域で解決できることも整理ができていく点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

ポイント5 地域課題を把握・整理・仕分けする場を設ける (p8, p19)

ポイント25 「地域課題の種」「自立促進要因の種」を検証して地域課題・自立促進要因を把握する (p17)

ポイント26 地域課題・自立促進要因をレベルで分ける (p17)

ポイント29 地域課題・自立促進要因を構造的に把握する (p19)

19

シーン 8

8月24日

介護保険事業計画策定にあたっての係内協議の場面です。地域ケア会議の課題を整理できたことで、今後、なすべき事業の方向性が見えてきたようです。

このシーンで注目すべき点

地域課題に対応する事業の整理を行い、介護保険事業計画に反映させようとしている点

登場人物

【小川市健康課】
課長補佐
高齢者支援係長
高齢者支援係員

20

このシーンの振り返り

係内・担当者

- 地域課題に対応する事業の整理を行い、介護保険事業計画に反映させようとしている点。
- 新規事業の考案に向け、受託先の検討を図っている点。
- 事業拡充に関する試算（予算確保の準備）。
- 移動に関しては、他課との連携により、バスの運行経路の変更などの検討を行うためにも庁内連携も視野に入れている点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

- ポイント5 地域課題を把握・整理・仕分けする場を設ける (p8, p19)
- ポイント30 地域包括支援センターの事業計画に組み込む (p20)
- ポイント31 地域包括支援センター運営協議会で検討する (p20)
- ポイント32 既存の事業を活用する (p21)

21

シーン 9

9月4日

地域課題の解決を図るには、庁内連携は重要であることから、健康課長が旗振り役となり、関係する各課との調整を始める場面です。

このシーンで注目すべき点

困りごとを助けてほしいではなく、つながること、連携することにより、お互いがWin-Winとなることを打ち出している点

登場人物

健康課長 生涯学習課長 子ども未来課長
地域支援課長 企画課長

10月1日

3役説明(市長説明)

登場人物

市長 健康課長 企画課長

22

このシーンの振り返り

管理者

- 困りごとを助けてほしいではなく、つながること、連携することにより、お互いがWin-Winとなることを打ち出している点。
- 少ない人員で業務を回すなか、効果的・効率的にできることを「ともに考えましょう」と丁寧に根回しを行っている点。
- トップダウンではなく、幹部職員が参加するセミナー企画、合意形成を図る流れを意識して戦略を立てている点。

手引き



地域ケア会議の活用における
困難を解決するための主な
ポイント

ポイント45 組織アセスメントのもと庁内での理解をひろめ、連携体制を構築する(p27)
ポイント46 地域課題の検討の場に権限のある人に参加してもらう(p27)

23

小川市の新しい 地域ケア会議の体系図

関係課・関係者・関係機関とともに
対話を重ねて、再構築！

もう、迷わない！
ビジョンを達成するために進む

24

新 小川市の地域ケア会議体系図

開催主体	会議名	会議の目的	地域ケア会議の5つの機能					参加者	開催頻度
			① 個別課題 の解決	② ネットワーク 構築	③ 地域課題 の発見	④ 地域づくり 資源開発	⑤ 政策の 形成		
地域包括支援 センター	ミニケア会議	新規利用者の事例について、自立支援 に向けた個別ケースの検討、自立支援 の手法の共有、地域課題の発見・解決 策等の検討	○		○	○		包括職員、市健康課、栄養 士、OT等	1回/月
地域包括支援 センター	地域ケア 個別会議	支援困難ケースの問題解決	○	○	○			包括職員、CM、必要に応じ 市健康課、他関係者参加	年2回以上
小川市	小川市 地域ケア会議	自立支援の考え方の共有、認知症の方 に必要な支援体制構築	○	○	○	○		市健康課、包括職員、CM、 サービス提供事業所、専門 職、民生委員等	1回/月

それぞれの地域で解決できなかった地域の課題について、市全体で解決策・取組みを検討していく

小川市	地域ケア 推進会議	地域の課題を共有し、課題解決に向け 具体的に連携し取り組む		○	○	○	○	市職員、第1層協議体他	必要に応じ 開催
小川市	庁内連携 推進会議	共生のまちづくりに関して関係課の事業 内容、地域の課題を共有し、課題解決に 向け具体的に連携し取り組む		○	○	○	○	市職員、他	年2回

25

政策につながりやすい 庁内連携への体制づくり



諦めず、挑戦

上席の理解を得るには
Win-Winの政策課題を打ち出す！

26

庁内連携推進会議

1. 構成員	副市長 人事秘書課、総務課、企画課、地域支援課、福祉事務所、子ども未来課、学校教育課、生涯学習課、健康課、その他必要に応じて関係課に出席を求める
2. 事務局：健康課	なお、庁内連携推進会議の下にワーキングチーム（各課に推進員を配置）を置く
3. 庁内連携推進会議の機能	① 共生のまちづくりに関して関係各課の事業内容、課題を共有する ② 具体的に関係課が連携して行える事業の整理・調整を行う ③ 重層的支援体制整備事業への移行計画について機構改革を含めて検討する

27

まとめ

地域ケア会議は、立ち上げに苦勞し、スタートしたら毎回、こなしていくことに懸命になりがちです。

いま一度、地域ケア会議開催の目的や意義を関係者と確認し合い、わがまちのビジョンとともに、より良い高齢者の暮らしを実現できるよう、体系や運営方法を見直してみましょう。

地域ケア会議の運営に疑問を感じたら、一度、立ち止まり、手引きも参考に、どこに課題があるかを関係者とともに対話をしながら、確認し、解決の糸口を探っていきましょう。

28

地域ケア会議を活用した政策形成のプロセス (地域ケア会議の効果的な運営の推進に関する調査研究)

制作:地域ケア会議の効果的な運営の推進に関する調査研究委員会

委員名簿

氏名	所属先・役職名
石山 裕子	大川市 健康課 高齢者支援係 係長
兼松 亜都子	京極町地域包括支援センター センター長
高良 麻子	法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授
杉谷 彰彦	生駒市基幹型地域包括支援センター 社会福祉士
飛田 良子	国立市 健康福祉部 高齢者支援課 地域包括支援センター 係長
中 恵美	金沢市地域包括支援センターとびうめ センター長
中澤 伸	社会福祉法人川崎聖風福祉会 理事・事業推進部長

オブザーバー

氏名	所属先・役職名
田中 明美	厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室 室長補佐
延 育子	厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室 地域包括ケア推進官
引間 愛	厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室 企画調整係長